

風蓮湖・春国岱

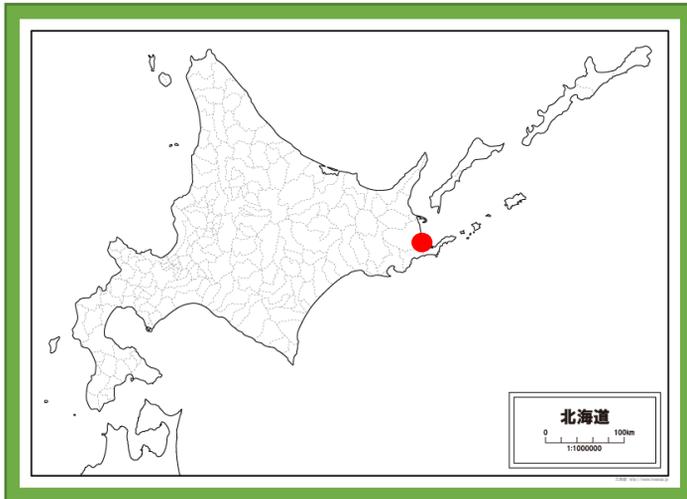
～ 北海道ラムサールネットワーク総会を取材する ～

ユースが全国各地で湿地を取材、魅力を発信！ Youth Research Project

北海道の東部、根室半島の付け根にある「春国岱（しゅんくにたい）」。根室湾と風蓮湖の間に横たわる細長い3列の砂州になっており、根室湾に堆積した砂が巨大地震の際に隆起することによってできたと言われています。砂州には海岸、草原、湿原、森林、干潟など多様な環境が存在しており、それぞれの環境を利用する野鳥たちが生息していることから「野鳥の聖域」とも呼ばれています。風蓮湖まで含めると、これまでに約340種の野鳥が確認されています。

多様な湿地環境が存在すること。数多くの野鳥が確認されていることから、2005年に「風蓮湖・春国岱」としてラムサール条約に登録されています。

今回は、2019年8月4日～5日に「春国岱」および「春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター」で開催された「北海道ラムサールネットワーク総会」のプログラムに参加すると共に、総会に参加した道内各地のラムサール条約登録湿地で活動する人たちにインタビューを行いました。



風蓮湖・春国岱の位置



春国岱を観察中

キーワード 「北海道ラムサールネットワーク」 (略称：HRN)

今回のユースリサーチプロジェクトで取材した「北海道ラムサールネットワーク」は、北海道内のラムサール条約登録湿地の保全とウィズユースに携わる施設や団体によるネットワークです。道内のラムサール条約登録湿地における保全とウィズユースの啓発と推進を目的として活動しています。

年次総会は持ち回りで行われており、開催地が企画する現地見学会や子ども交流会なども行われています。その他、勉強会やシンポジウムの開催。書籍や普及啓発ツールの作成なども行われています。

子ども交流会のサポート

ユースラムサールジャパンのメンバーは、今回の北海道ラムサールネットワークでは、子ども交流会のアイスブレイクや観察会のサポートを担当しました。

アイスブレイクでは「ジャンケン列車」を実施。北海道中のラムサール条約登録湿地から集まってきた子どもたちが交流しやすい雰囲気を作ることができました。



アイスブレイクのジャンケン列車

観察会のサポート

観察会のサポートでは、望遠鏡を運ぶのを手伝いました。

道中ではオジロワシやキタキツネなど、北海道ならではの動物、ナミキソウなどの貴重な植物を観察することもでき、春国岱の自然を満喫することができました。



道中に目撃したキタキツネ



望遠鏡を運ぶユース

「北海道ラムサールネットワーク総会」参加者にインタビュー

北海道ラムサールネットワーク（以下、HRN）総会の参加者にインタビューを実施し、HRNの活動やネットワークを作る意義について聞きました。

◆ 中村さん（ウトナイ湖） 牛山さん（宮島沼）

<HRN発足のきっかけ>

発足したのは2006年。今年で13回目の開催となる。辻井達一先生（北海道環境財団理事長・故人）が、北海道のラムサール条約登録湿地を集めて団体を作ることを呼びかけたことがきっかけ。

<センター同士の集まり>

他の地域の湿地では市とか町など自治体でのつながりがあるが、HRNはセンター同士の集まりのため、情報共有しやすく、本や「しめっちカルタ」などの普及啓発ツールを作るときに連絡が取りやすい。

<ネットワークを作る意義>

一人ではできないようなこともネットワークのみんなで作る仲間意識を持つことで、活動中に出てきた考えや問題点を気軽に話し合いに出しやすい。新しく人が入ってくることで新しい色をどんどんと足していってもらえることを期待している。

◆ 田島さん（鶴居タンチョウサンクチュアリ）

<子どもたちのつながり>

大人たちがつながりを持っていることで、子どもたちにもつながりを持たせやすく、自分のやりたいことをやりやすいのがHRNのいいところだと思います。

◆ 澁谷さん（水鳥・湿地センター 厚岸水鳥観察館）

<HRNがあることの効果>

各地説のメンバー同士で接点があったため、HRNがあってもなくてもお互いの活動のことは分かっていたが、HRNを作ることで連絡や意見交換がしやすくなった。

◆ 内山さん（北海道環境財団）

<ネットワークの強み>

場所が離れているため、個人の活動になりそうなところを、共通の目的に向かって動くことで共に問題解決ができたり、総会で出た意見をHRNの意見とすることで強みを持たせることができる。



HRN総会参加者にインタビューするユースラムサールジャパンメンバー

◆ 青山さん（環境省稚内自然保護官事務所アクティブレンジャー）

<他の湿地とのつながり>

サロベツ湿原でしか活動していなかったが、HRNでは他の湿地の生の声を聞くことができる。課題なども聞くことができる。HRNがあったから頑張れるところもある。

◆ 原田さん（釧路湿原）

<経験談の共有>

それぞれの場所だけにいるとつらい時もある。その時、経験談を教えてもらったりすることで救われることもある。



◆ 櫻井さん

<子どもたちへの効果>

総会に来ることで、同じ仕事をしている人と交流できたりするところがいいです。また、子どもたちが違う場所に行って何かを発見する姿を見るのが楽しい。

◆ 秋山さん（瀧沸湖水鳥・湿地センター）

<日頃の仕事への効果>

HRNは、総会以外はなかなか集まれないため、普段はメールなどでお知らせ、質問、悩みなど情報交換している。総会では、他の湿地の人と交流して勉強でき、直接相談もできる。そうしたつながりのなかから湿地ごとの情報や問題への対応を知り、仕事に活かすことができている。

参加者感想

○ラムサールネットワークについての話を聞いたり、たくさんの方と話すことができました。

取材することができて初めて話す人もたくさんいて緊張したけど、わかりやすく質問に答えてくださる方ばかりでとてもやりやすかったです。（浅井萌香）

○春国岱では、ユースの仕事しながら広大な自然のなかで木道を歩き、オジロワシも見ることができ、様々なことを知ることができました。オジロワシは望遠鏡で見ても肉眼で見てもとても大きく、とても目立っていました。（伊藤三津葉）

○春国岱の魅力は、いろいろな環境がひとつところ

にあることだと思います。右を見れば海や砂浜、草原。左を見ればすぐそばに湿原や森林。という風に、とてもたくさんの環境を一度に見ることができ、とても面白く感じました。（根岸奈央）

○はじめてのユースの活動、インタビュー、とても緊張しました。そのとき、ユースのみんながとても優しく教えてくれて、緊張が少しほぐれました。（上西彩羽）



風蓮湖・春国岱へのアクセス

○公共交通機関の場合

- ・ JR根室本線(花咲線) 根室駅から、根室交通「厚床」行きバス乗車。「東梅(とうばい)」バス停下車。徒歩2分。
- ・ 根室中標津空港から、「根室バスターミナル」行きバス乗車。「東梅(とうばい)」バス停下車。徒歩2分。

○自家用車の場合

- ・ 根室市街より車で15分(国道4号線沿い)

ユースリサーチプロジェクト ー風蓮湖・春国岱ー

実施：2018年8月4日(発行2020年6月1日)

取材：浅井萌香 伊藤三津葉 上西彩羽 後藤拓朗 佐藤琢磨 根岸奈央

取材・発行：ユースラムサールジャパン TEL/FAX 052-446-8489

E-mail youth.ramsar.japan2015@gmail.com

URL <http://youth-ramsar-japan.jimdo.com/>

Facebook www.facebook.com/youthramsarjapan

